

水族館の役割とその取り組み

—ホタルの保存やザリガニの餌利用などについて—

仙台うみの杜水族館
魚類チーム 相澤真哲

動物園・水族館は様々な役割を担っていますが、その中で広く知られている4つの活動が、種の保存、環境・環境教育、調査・研究、レクリエーションになります。ただ、最近では保全が中心となってきており、新たな施設を検討するのであれば保全を伝えられる機能を備えることが求められています。

仙台うみの杜水族館では、これらの活動を様々な角度から取り入れ、楽しみながら学んでもらう、知ってもらう場を提供させて頂いております。その中で、魚類チームでは仙台うみの杜ラボゾーンにて宮城県に生息する生物の中で減少傾向にある種の飼育・繁殖を行なっています。現在、宮城県でレッドデータブック2023に記載されている種は哺乳類25種・鳥類66種・爬虫類5種・両生類10種・昆虫類213種・魚類38種類です。その中で仙台うみの杜水族館では哺乳類1種・両生類3種・昆虫類1種・魚類11種の計16種の飼育・繁殖を行なっています。準絶滅危惧種であるゲンジボタルの飼育・繁殖は2020年から行っています。昆虫類であるホタルにおいても地域固有の遺伝子があるため、仙台うみの杜水族館では様々な地域のホタルの混合はせず、大崎市鹿島台で自生しているホタルのみを採取し現在、飼育・繁殖をしています。

環境教育の一環としては、(公益財団法人)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団で実施されているバス・バスターズにて駆除したオオクチバスやNPO法人シナイモツゴ郷の会で駆除したアメリカザリガニを、大型淡水魚の飼料として利用している事などをお客様にお伝えしています。

仙台うみの杜水族館では、今後も現在の活動の継続、また温暖化による環境変化の紹介、それに伴う対策の一つブルーカーボン活動などの実施を行いながら、自然環境についての情報発信の場の一つとなって行ければと考えています。